

第5・6学年 保健「けがの防止」の実践を通して

日野町立黒坂小学校 宮本 寛之

1 はじめに

学校生活でのけがや事故、家庭・地域での事故や犯罪も起きているが、小学校高学年ともなると、論理的な思考ができるようになってくる。けがの原因と防ぎ方について理解や、生活の中で役立つ知識を身に付けさせ、安全な行動がとれるようにさせていきたいと考えて単元を進めた。



本校は小規模校であるため、5、6年生の合同体育の授業形態をとっている。そのため、カリキュラムはA・B年度制で行っているの、本年度は、5年生教材を扱った。

単元計画は、ICTの活用、話し合いの充実（グループ→全体）、養護助教諭とのTTを柱として考えた。

2 指導の実際

○ アンケートの実施

- ・今年度のけがの内容と場所について、5、6年生全員にアンケートを実施した。

○ ICTの活用

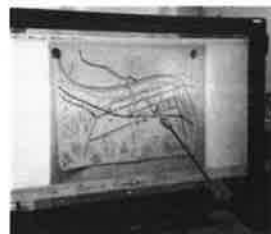
- ・アンケート結果をグラフ化し、電子黒板で掲示して、全体での話し合いがしやすいようにした。
- ・校内で起こりそうなけがや事故について、普段の様子や起こる状況を動画にまとめ、けがの原因や防止について考えやすいようにした。
- ・校外の危険箇所や防止の手立てを写真で提示して、事故原因の特定や事故が起きない工夫について具体的に考えさせるようにした。

○ 養護助教諭との連携

- ・校内で起きるけがの状況や、2学期の後半に授業を行ったので6年生を意識して部活動のけがなどで中学校に進級したときに気をつけることについても触れてもらった。
- ・熱中症だけでなく、冬休みを前にやけどの手当てなどについて、自分達でできることを専門的な立場で話をしてもらった。

○ 話し合い活動の充実

- ・アンケート結果グラフから、けがの様子や起こる場所についてグループで話し合った後、全体の話し合い活動に入ることで、自分自身を守るという意識が高まった。
- ・校外の危険な場所を、グループでまとめ、危険な場所を地図に書き込み、全体の中で、危険な場所の共有及びその防ぎ方について考えを深めた。



3 成果と課題

- 5、6年生全員にアンケートを実施し、結果を提示することで、けがが身の回りで起きやすいことを改めて確認し、けがの防止方法を考えることに役に立った。動画や写真を使って、視覚に訴えることや、グループでの話し合いで、防ぐ方法を具体的に考えることができた。
- 養護助教諭に入ってもらうことで、けがをしたときの手当ての方法についても、具体的に指導することができた。